日常の歩行を想定した「歩いて楽しい地区」の評価

北詰　恵一[1]・北村　良太[2]・小西　季衣[3]

[1]正会員　関西大学教授　環境都市工学部都市システム工学科（〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35）
E-mail:kitazume@kansai-u.ac.jp

[2]学生会員　関西大学大学院理工学研究科（〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35）
E-mail: k805521@kansai-u.ac.jp
[3]E-mail: kie.koni12@gmail.com

本研究は，通勤・通学や買物などの日常行動を想定し，歩くことの楽しさが，地区別の地形，社会基盤整備状況，都市構造などによって影響を受けると考え，その地区評価を行うことを目的とした．健康に関わる事業が進む吹田市の市民に対しアンケートを実施し，「歩いて楽しい地区」に対する重要評価指標をもとに，地区別の代表的な通勤・通学，買物ルートに対する現地計測の結果に基づく地区別評価を行った．地区別の総合評価点は100点満点中15点程度の差に留まるが，各指標に対する評価は大きく分かれ，地区別の評価指標の違いを反映していることが分かった．市民は，地区別の条件の違いを踏まえながら歩く楽しさを感じており，健やかなまちづくりを目指す上での地区の個性を活かしたまちづくり地区政策の必要性を改めて示唆するものとなった．

Key Words : *walkable city,healthy city,daily life assessment*

1. はじめに

日常生活における身体活動は，生活習慣病リスクの軽減効果があるとされ，厚生労働省は身体活動の普及・啓発を進める政策を実施してきた[1]．また，日頃から意識的に身体活動を行うために無理なく運動を実施する方法の提供や環境をつくることが求められている[2]．なかでも「歩く」ことの健康への効果は広く知られており，例えば，国土交通省は，歩くことと医療・福祉とを関連づけながら，まちづくりを進めていくこととしている[3]．一方で，医療・福祉の側面からは，地域医療の推進や地域包括ケアシステムなどが，地域により重きを置く方向となっている．ひとつの基礎自治体の中では，「30分でかけつけられる圏域」としての日常生活圏や従来からまちづくりで考えれている近隣住区など，様々な呼び方はあるものの，直接的な医療や介護だけでなく，住まい，予防，生活支援といった総合的な枠組みで詳細な地区のニーズを反映させる努力がなされている．今後，詳細地区区分をベースに個々の状況に合わせた施策が実施され，地区別の地形や都市構造などの条件による健康・医療・福祉に関わる指標に基づく評価が必要になってくると予想される．

また，個々の自治体でもまちづくりの基本的な狙いのなかに「健康」を盛り込むケースが増えてきており，市民の活動を支援するソフト政策や病院などの医療機関および福祉施設の再配置とそれをきっかけとする健康への関心の喚起を目指すものが見られるようになった．

大阪府の吹田市と隣接する摂津市では，平成30年度に「健都」と呼ばれる操車場跡地開発があり，国立循環器病研究センターと吹田市民病院が移転することを中心に「健康・医療のまちづくり」が進められる[4]．現在，医療クラスターの形成に向け各エリアで様々なプロジェクトを推進しており，これらの取り組みを吹田市・摂津市全域に広げ，市域全体に効果を波及させる取り組みがなされつつある．

そこで，本研究は，まちづくりのベースとなる日常生活のうち「歩く」ことに着目し，その中でも，通勤・通学や買物などのほぼ毎日行われる行動を想定し，日頃歩くことの楽しさが，地区別の地形，社会基盤整備状況，都市構造などによって影響を受けると考え，それらによる地区評価を行うことを目的とする．

谷口ら[5]は，全国PT調査のデータからわかる都市特性と住区特性を設定した住区群に対し，歩行実態に関する調査及び歩行量の推定を行った．個人の歩行量の喚起に

買い物や娯楽目的の外出が効果的であることを定量的に示し，土地利用状況や人口密度や駅までの距離などが移動歩行量に影響を及ぼし，用途地域特性との関係も指摘している．孔ら[6]は，医療施設，買物施設，事務的施設などの生活環境施設への交通行動と身体活動量との関係性を分析し，施設利用における徒歩の健康増進策として景観的に楽しめる歩道などを提案し，歩行環境の整備の効果を示している．

本研究は，日常生活の各場面において「歩くことの楽しさ」に着目し，これら既存研究で示される評価結果や歩行を喚起する工夫の効果を上げるベースとなる基盤的な評価としての地区特性との関係を知ることで，より総合的な評価に繋げていきたいと考えている．

2. 対象地域の概要

大阪府吹田市は，人口375千人(平成27年国勢調査人口速報値)，面積36.1km^{2}の市域であり，域内に13の鉄道あるいはモノレールの駅を有する．全域が市街化区域であり，最も広い用途地域は第１種中高層住居専用地域であり32.8%を占める．ニュータウンを含む新旧の住宅街を持つベッドタウンである．

36の小学校区に分かれ近隣住区を形成しており，総合計画における地域別計画は６地域に分けてまちづくりを進めている．また，平成28年度現在，15の地域包括支援センターが地区分担して支援を実施している．

図-1 吹田市の地区区分（吹田市HPより）

3. 市民へのアンケート

吹田市民を対象に健康まちづくりに関するアンケートをweb形式で2015年に実施した．収集したサンプル数は500サンプルである．設問数は44項目で構成されているが，個人属性の他，主な質問項目は，日常歩く地域に対する点数評価とその理由となる道の要素別の５段階評価である．点数評価は，「日常生活において，屋外で歩くとき，歩いて楽しいですか．楽しさを100点満点で評価してください．」という質問であり，その理由となる道の要素は**表-1**に示す12項目である．これらの項目は，道の景観把握としての五感に関わる部分とそれらの多様性および変化，さらに社会基盤としてのハード整備に関わる部分と，実際にまちを歩く活動をしている市民から多く意見が寄せられる安心できる道という観点から構成したものになっている．

表-1 歩いて楽しい地区評価項目

(1) 公園や街路樹などの緑が多い
(2)鳥のさえずりやにぎわっている声など，心地よい音が聞こえる
(3)道すがら，人（あるいは動植物）との触れあいがある
(4)興味深い建造物（住宅，モニュメント，公共構造物など）がある
(5)(1)～(4)に挙げたものが，歩くコースの中に色々ある（多様性）
(6)(1)～(4)に挙げたものが，歩くたびに変わっていく
(7) 坂道・階段が少なく緩やかで，歩きやすい
(8) 道路（歩道）が整備されていて，歩きやすい
(9)ベンチや小さな広場など休憩できる場所がある
(10)道が明るい（建物の陰になっていない，街灯がある）ので，安心できる
(11)人通りが多く，何かあっても助けを求められるので，安心できる
(12)その他，どのようなことがあれば，歩いて楽しいと思いますか．

表-2 歩いて楽しい地区評価項目

地域区分	サンプル数（人）	評価点の平均点（点）	分散
全体	500	57.8	673.2
NT(北)	64	63.1	575.8
NT(南)	31	56.1	859.7
山田(西)	66	58.1	540.3
山田(東)	66	57.1	722.4
千里山	95	61.5	651.3
片山	45	59.6	545.8
豊津（阪急豊津駅）	47	46.2	647.0
豊津（江坂駅）	50	57.0	637.4
JR以南	47	60.0	811.4

本研究グループは，この結果もとに基礎的な地域別評価を実施している[7]．本研究においては，それらをより地域別の特性を踏まえて評価したい．**表-2**は，より地区特性を反映した9区分での地域区分別の楽しさに対する評価結果である．全市の平均点が60点を下回り，全体として評価は高くない．また，豊津（阪急豊津駅）地区の評価が低くなっており，全体としては16.9点の差が見られる．

4. 地域別の評価と課題

先述のアンケート結果と地区別のまちの成り立ちや地形および地区特性に応じて，「歩いて楽しい地区」の評価を行う．

(1) 千里ニュータウン・万博・阪大地域（北）

本地域は，評価点が最も高く，またそのばらつきも小さい．また，要素の多様性については他地域と比較すると最も低い評価であるが，歩道の整備率は最も高い評価である．同地域は，日本で最初に整備された千里ニュータウン地域であり，ひとつのまちづくりコンセプトにより整備されてため画一的な面があるものの，一方で千里丘陵地に計画的に作られたことから，道路幅，公園・緑地帯，水路などを広くとっているところである．高齢化率が高いが，豊かな空間形成の潜在力をメリットとした質の高い歩行空間を整備できる高い可能性を有している．

(2) 千里ニュータウン・万博・阪大地域（南）

本地域は，同じニュータウン地域でありながら，評価点が低く，またそのばらつきも大きい．緑地については他地域と比較しても最も高い評価であり，要素の多様性も評価されている．同地域は，鉄道駅周辺を中心に集合住宅が立地し，近年建替えが進んだことから，引き続き高齢者も居住しているものの，新たな子育て層を中心とした若い世代も入居し始めた地域である．このことが，評価のばらつきに影響していると考えられる．緑地の整備が充実しているとともに，ゆったりとした計画的な空間形成は同様にあることから，新たな年齢階層のニーズを適切に反映した外出誘引政策を絡めながら，歩行空間のデザインを市民主体で進めていくことが求められよう．

(3) 山田・千里丘地域（西）

本地域の評価点は平均的であり，そのばらつきは小さい．旧街道沿いの古い集落の趣を残しつつ，地域に古くから根付いた神社仏閣が多く集積して，多様性のある沿道景観を構成している．同様に緑地比率は高いが，ニュータウン地域と異なり竹林や古くからの屋敷林の比率が高い．居住者は，古くからの人々が多いことから，比較的同一の評価軸を持っているものと考えられる．一部の地区幹線道路を除けば，地形に沿って曲線を描く狭い道が続いており，微地形の高低差も感じられる道のりとなっている．これを多様なおもしろさと評価されることもあるが，一方で，人通りの少ない安心できない道と評価されることにもなる．一部の地域では，新しいマンション開発が進むようになったが，旧来の街道筋の集落とは融合したものにならない可能性が高い．歩くルートが二分化することが懸念されることから，多様な地区をまたぐような歩行ルートの設定による地域の界隈性を高める工夫が必要となる．

(4) 山田・千里丘地域（東）

同様に評価点は平均的であるが，そのばらつきは大きい．同地域は，JR線に沿って交通量の多い幹線道路も走っており，それらへのアクセス性も高い．土地利用が混在・密集していて，非住宅利用の展開も短期間で行われる．一方で，道路空間に余裕が無いことから，歩いて楽しい道を構築するポテンシャルとして空間に頼ることは難しい．景観構成要素の多様性と変化に基づくデザインが求められる．

(5) 千里山・佐井寺地域

評価点が比較的高く，ばらつきは平均的である．千里丘陵の起伏の多い地形の尾根筋にある寺・集落が歴史的なまちなみを形成している．一方で，鉄道沿線は，大正末期からの阪急電鉄による郊外住宅地開発の地であり，ニュータウンよりさらに古いまちづくりの経緯を持っている．従って，比較的古くからの住民による構成により評価にはまとまりがあるが，ニュータウンとは開発時期が異なることから，必ずしもゆったりした道路空間ポテンシャルを持っていない．ただし，最近大きな公営住宅地と駅前の開発が行われたことから，子育て層を中心とした新規世帯の入居が進んでいる．道路空間としては統一感があるが，そこを歩く人々の新旧の融合・協調が求められる．

(6) 片山・岸部地域

同地域の評価点は平均的でばらつきも小さい．この地域は，山田・千里丘地域（東）と同様にJR線および広域道路幹線沿いに非住居土地利用が集積し，その奥まった空間にある長い歴史を持った旧来からの居住地と混在した土地利用空間となっている．先述した操車場跡地の「建都」を含む地域であり，むしろ，これをきっかけとした健康指向の「歩く」習慣のきっかけとなるべき地域である．地元住民の同事業に対する期待も高く，健康をコンセプトとしたまちづくりの理解も高まってきている．地域をまたぐような歩行ルートの設定により，「建都」の効果を広げていくしかけが求められる．

(7) 豊津・江坂・南吹田地域（阪急豊津駅周辺）

同地域の評価点が最も低い．ばらつきは平均的である．大きな公共施設群があり緑地はあるものの全体的にその比率は小さい．ニュータウンや千里山のような計画的なまちづくりというわけではないが，いわゆる生活に密着した施設が充実した生活空間となっている．従って，にぎやかな生活を送る上では効率的な地域であるが，「歩

いて楽しい」という観点から見るとさらなる工夫が望まれる．まちの賑わいにきっかけを求め多様性と変化に重点を置いた楽しさを醸成することが必要と考えられる．

(8) 豊津・江坂・南吹田地域（江坂駅周辺）

評価の平均点，ばらつきともに，市全体とほぼ同じである．この地域は，標高差が全地域の中で最も低く歩きやすい．そして，市域で最も商業機能が栄えた地域であもある．鉄道網を使って大阪市中心部に利便性高くアクセスできることから，若い単身層を中心とした都会型居住とビジネス・企業群の立地が進む．居住機能と企業機能の有機的な連携によってまちそのものが活性化するような取り組みも続けれており，そのひとつのメニューとして「歩いて楽しい空間」を構築していくことが，本地域の特性を活かした道筋と言える．

(9) JR以南地域

評価点の平均点は市全体とほぼ同じ値で，そのばらつきが非常に大きい．吹田市内で最も古くから街並みが形成された吹田発祥の地とされている．面的な整備が行われた地域というよりは自然発生的に土地利用が進んだ地域であり，木造密集地域や非常に狭く曲がった街路で構成される地域となっている．そのため，歩道の整備状況は他の地域と比較して低い評価となっている．一方で，歴史的な街並み空間として非常に価値の高いものがあり，江坂地域とは異なる昔ながらの商店街機能も立地しており，工場立地も見られる．これらの古いまちなみを損なわない歩行ルートの整備を進めることが求められる．

5. まとめ

本研究では，吹田市民に対しwebアンケートを実施し，地区別の市民に対し，日常歩く道の楽しさの総合点数評価と各道の要素の５段階評価を聞いた．

地区別の総合評価点は100点満点中15点程度の差に留まるが，各指標に対する評価は分かれるものもあり，地域別の評価指標の違いを反映していることが分かった．地域別に沿って検討したところ，次のような点が地区別評価に影響した．

- 年代によるが，計画的に整備されたまちかどうかにより，ゆったりした空間形成の潜在力の有無が異なる．
- 同じ特性を持った地域でも，住民の転出入が大きい地域と多くの住民が長く住み続ける地域とでは評価のばらつきがあり，その調和を見出す必要がある．
- 地域内の詳細な特性の違いがあり，政策実施のための地域区分については，歩行経路単位の評価と併せながら，より詳細区分についても考える必要がある．

謝辞：本研究は，健康まとづくりのためのソーシャルデザイン研究会の活動の一環として実施した．ここに謝意を表したい．

参考文献

1) 厚生労働省：健康づくりのための身体活動基準 2013，2013.
2) 厚生労働省：平成 25 年国民健康・栄養調査結果，2015.
3) 国土交通省都市局まちづくり推進課・都市計画課・街路交通施設課：健康・医療・福祉のまちづくりの推進ガイドライン（技術的助言），2014.
4) 吹田市：吹田操車場跡地まちづくり実行計画，2015.
5) 谷口守・松中亮治・中井祥太：健康まちづくりのための地区別歩行喚起特性―実測調査と住宅地タイプ別居住者歩行量の推定―，値域学研究，Vol.36，No.3，pp.589-601，2006.
6) 孔慶明・近藤光男・奥嶋政嗣・渡辺公次郎・近藤明子：生活環境施設の利用を目的とした交通行動による身体活動量増進策の提案と効果に関する研究，公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集，Vol.47，NO.3，pp.781-786，2012.
7) 小西季衣・北詰恵一：日常の「歩く」ことを支える健康まちづくりのための地域別評価，平成 28 年度土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集，CD-ROM，Ⅳ-30，2016.

(2016. 8. 26. 受付)

ASSESSMENT OF AREAS WHERE PEOPLE FEEL ENJOYABLE FOR DAILY WALK

Keiichi KITAZUME, Ryota KITAMURA and Kie KONISHI

This paper aims to assessment areas where people feel enjoyable for daily walk. The enjoyment of walk in each area is affected by its terrain, level of infrastructure and structure of urban area. Suita city in which new projects related to health and welfare will be developed is selected as a target city and a questionnaire survey is conducted. The results of assessment have diversity by area. This paper comprehensively assesses areas from the point of view on enjoyment of walk by the results of survey and features of each area in the city.